

狭いが勝ちか、スプレッド競争の臨界点

SBI FXトレードのケース

FXスポークスマン

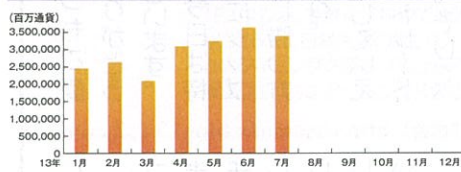
日本のスプレッドは、**「おもてなし」精神**

日本のFX会社の取引高は世界的に見ても非常に多い。2013年6月にGMOクリック証券やDMM.com証券の取引高が1兆ドルを超えたときには、世界的に大きなFXのニュースとなった。

取引高が増加した背景に

図表1 月間取引高推移(2013年6月~7月)

取引高順位	社名	2013年6月	2013年7月	増減額	前月比
1	GMOクリック証券	1,041,186	1,036,477	▲4,709	▲0.45
2	DMM.com証券	1,043,289	932,550	▲110,740	▲10.61
3	サイバーエージェントFX	529,053	426,302	▲102,751	▲19.42
4	ヒロセ通商	220,584	212,408	▲8,176	▲3.71
5	マネーパートナーズ	216,211	155,483	▲60,728	▲28.09
6	FXプライム	90,776	81,695	▲9,080	▲10.00
7	マネックス証券	37,309	25,624	▲11,685	▲31.32
	その他(6社)	768,489	519,940	▲248,549	▲32.34
	合計	3,946,896	3,390,479	▲556,417	▲14.10



出典: <http://www.yanoict.com/yzreport/284>

「狭いスプレッド」が挙げられる。顧客へのサービスとして、一番眼に見えやすいのがスプレッドを狭くすることなのである。海外のFX会社と比較して、非常に狭いスプレッドは、日本のFX会社特有の顧客への「おもてなし」精神の表れといってもよいかもしれない。

このスプレッド競争、いったん始まったら、まるで狂想曲のように激化していった。とくに、2012年、スプレッド競争は熾烈を極めた。その火つけ役となったのが、2012年5月にFXを開始すると同時に、「米ドル/円」0.19銭のスプレッドを打ち出したSBI FXトレードである。そして矢継ぎ早に、2012年8月には30

さらに、2013年2月に「米ドル/円」のスプレッドを0.1銭まで縮小させた。しかし、2013年7月になると、SBI FXトレードとGMOクリック証券は「米

ドル/円」のスプレッド拡大に動いた。SBI FXトレードは0.29銭(1万通貨以下の取引)に引き上げ、GMOクリック証券は0.4銭に引き上げたのだ。

図表2 2012年の各社のスプレッド推移

発表日	会社	内容	開始
8月3日	SBI FXトレード	0.39銭 → 0.29銭 ※1万通貨より5万通貨まで	6日から
		0.79銭 → 0.39銭 ※5万通貨より30万通貨まで	
8月24日	GMOクリック証券	0.4銭 → 0.3銭	27日から
	DMM.com証券	0.4銭 → 0.3銭	27日から
8月27日	SBI FXトレード	0.19銭 → 0.15銭 ※1万通貨以下	28日から
		0.39銭 → 0.29銭 ※1万通貨より30万通貨まで	28日から

出典: 読売新聞2012年9月5日付

このスプレッド拡大という、コペルニクス的転回の事象に戸惑った方も多いはずだ。たぶん、ほとんどの人が、もうスプレッド競争も限界にきたため、拡大方向に動いたのだと感じたのではないかと思う。そして、10月、SBI FXトレードは「米ドル/円」(1万通貨以下の取引)を0.27銭に、11月には「豪ドル/円」(1万通貨以下の取引)を0.77銭に縮小した。GMOクリック証券も「豪ドル/円」を0.8銭に、そして、12月には「米ドル/円」を0.3銭に縮小している。再び、果てしないスプレッド競争が始まるのか?

近年のスプレッド競争を先導してきたといっても過言ではないSBI FXトレードに、こういった同社の最近の動向の背景について話を伺った。

図表3 「豪ドル/円」のスプレッド

FX会社[サービス名]	縮小開始日	変更内容
SBIFXトレード	2013年11月14日(木)~	0.99銭原則固定 → 0.77銭原則固定 ※1万通貨までの取引
	2013年11月18日(月)~	1.29銭原則固定 → 0.88銭原則固定 ※1万1~100万通貨までの取引
GMOクリック証券 [FXネオ]	2013年11月13日(水)~	1銭原則固定 → 0.8銭原則固定
マネーパートナーズ [パートナーズFXnano]	2013年11月07日(木)~	1銭原則固定 → 0.9銭原則固定
サイバーエージェントFX [外貨ex]	【期間限定】 2013年11月1日(金)~ 2013年11月29日(金)~	1.2銭~ → 0.9銭~

出典: <http://fx.aol.jp/hayamimi/2013112214/>

良過ぎるスプレッドの弊害



SBI FXトレードの藤田行生取締役は次のように説明する。

「7月にスプレッドを拡大したのは、主に2つの理由があります。ひとつは、当時の取引流動性の著しい低下により、急激な相場変動が続いた外国為替市場において、インターバンクですら適正なプライス形成が難しく、スレドワイド化も半ば恒常的になっていった。こういった状況下では、会社として低スプレッド提供に努めつ

図表4 「米ドル/円」のスプレッド(2013年12月現在)

FX会社名	スプレッド
SBIFXトレード	0.27銭
DMM.com証券 GMOクリック証券 FXトレーディングシステムズ	0.3銭
サイバーエージェントFX ヒロセ通商 外為ジャパン	0.4銭
FXプライムbyGMO マネーパートナーズ トレイダーズ証券 楽天証券 外為どっとコム	0.5銭
FXCMジャパン証券 ライブスター証券	0.6銭
アイネット証券 FXトレード・フィナンシャル インヴァスト証券 アルパリジャパン	0.8銭
IGマーケット証券	0.9銭
外為オンライン セントラル短資FX ひまわり証券	1.0銭

も、マーケットの実勢に照らした最低限の見直しを行う必要があったこと。

そしてもうひとつは、仮名借名口座と思われる手法で、当社の取引数量別スプレッドを悪用した取引(複数口座を用い、狭いスプレッドを狙った注文をいっせいに打つ等)が同時期において急増したことがあります。当社のお客さまの注文は親会社のSBIリクイティティナーマーケット(以下、「SBILM」)を通じて、インターバンクでカバーしています。これらの取引により、想像を超えるような大口のフロー(顧客注文)が出てしまい、ま

た、それを市場に出すことによつて、さらに市場を動かしてしまうという悪循環が生じました。

当社としては、お客さまにマーケットの実勢に比べ、格別良いスプレッドを提供し続けていたため、かえって当該悪循環を惹起してしまったのではないかと反省もあり、フローを管理し、市場を落ち着かせるために、マーケットの実勢に照らしたスプレッドの見直しを行うという英断に踏み切ったのです」

では、直近10月のスプレッドの縮小はどのような理由なのか。

「当社は可能な限りのスプレッドを提供するという方針には変わりありません。7月にスプレッドを拡大したおかげで市場が落ち着いてきましたし、「米ドル/円」も100円台に乗せてきましたので、年末に向けてお客さまに何かできることはないかというところで、またスプレッドを縮小することにしました(藤田取締役)。

こういった経験を積んで、健全な市場を維持するための万全な管理体制を再構築し、工夫もこらした。企業秘密だそうだが、カバー先であるSBILMでは単純にカバーするだけでなく、カバー率を下げずに、効率よくカバーできるスキームを有しているという。

FX会社同士で互いにインスパイアしあい、切磋琢磨してFXの世界を盛り上げていくてもらえれば、個人投資家も気軽に安心して取引ができるというもの。

しかし、FXが誕生してほぼ15年。そろそろスプレッド主流から新たなストリームを形成していてもいいような気がする。スプレッド競争で業界全体が疲弊しない前に。

FXスポークスマン www.fxspokesman.com

FX関連ビジネスのB2B電子業界誌・フォレックス・マグネイト日本版(JP.forexmagnates.com)の一般トレーダー向けに姉妹サイトとして立ち上げられ、一般トレーダー向けのFX情報配信サイト。FX初心者でも分かりやすく、最新のFX関連ニュースに加え、業者取材、ニュース評論・解説、独占記事などを提供しています。当コラムの全編はFXスポークスマンのオンラインコラムで掲載されます。ぜひ一度チェックしてみてください。

